

Title	突厥文字から見た世界史
Author(s)	鈴木, 宏節
Citation	大阪大学歴史教育研究会 成果報告書シリーズ. 2014, 10, p. 1-3
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/32764
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

突厥文字から見た世界史

鈴木宏節

本報告は、高等学校の世界史教科書（世界史 B）に掲載されているにもかかわらず、いまひとつ説明不足の印象がぬぐえず、かつ重要性が伝わってこない「突厥」と「突厥文字」について基礎から解説するとともに、両者を世界史のなかに位置付ける試みであった。

はじめに、教科書の記述を比較した上で、次の四点の基本事項について解説した。

第一に、突厥とは、六世紀から九世紀にかけてユーラシア中央部の草原地帯で活躍したトルコ系の遊牧国家のひとつであること（突厥とウイグル）。

第二に、突厥とは、簡潔に言えば、古代トルコ語において「トルコ」という意味の「テュルク」という単語を漢字で音写したものであるということ。

第三に、突厥碑文とは、遊牧民の民族系統・言語系統をはじめて明確にした、いわば古代トルコのロゼッタストーンであったこと。また、それは遊牧民はじめての独自の歴史史料である。そして、この突厥碑文をなす古代トルコ語とは、現代トルコ語の祖先で、ユーラシア史を彩るアルタイ諸語（トルコ・モンゴル・ツングース諸語）に属している。また同様に突厥文字とは、遊牧民はじめての独自文字であり、直接の起源は不明ながら、アラム文字に由来するアルファベットである【付録】。なお、突厥文字は、右から左に読み書きし、母音を可能な限り省く特徴があり、トルコ語の母音調和に対応しているので、教材を作成するには工夫が必要である。

第四に、突厥碑文が現存するモンゴル高原のオルホン川上流域は、中央ユーラシアの大草原のひとつであったこと。すなわち、六世紀から九世紀の中央ユーラシア草原はトルコ遊牧民の大地であった。それが現在の状況のように変化した原因は、トルコ人がモンゴル高原から中央アジアを経て移動したことにある。つまり、トルキスタン・オスマン帝国・トルコ共和国の成立といった世界史の流れの起点に、古代トルコ帝国の突厥・ウイグルを位置付けることができる。そして、その移動を可能にした背景には、遊牧民が草原とオアシスの中央ユーラシア世界においてオアシス農耕民や商業民を支配しながら、ひと・もの・情報が行き交うシルクロードの覇権を手に入れていた史実がある。

以上の要点を把握した上で、突厥碑文を史料批判する際の留意点を研究者の立場から提示した。すなわち、すでに作られたテキストではなく、拓本を利用して原点から史料を読み解くことである。そのために最新の碑文研究では、海外学術機関での拓本調査やモンゴル高原における採拓調査が必要であるが、それについてもスライド報告を行った。

おわりに、中央ユーラシア草原の遊牧国家の展開を「今のモンゴル昔のトルコ」というフレーズに要約し、突厥碑文は現在のモンゴルがかつてのトルコであった証拠であるという点を確認した。また、拓本を利用して本物の突厥碑文を見ると同時に、ただの文字の列挙にならない、意味と関連のある提示方法を提案した【教材】。

【教材】突厥碑文から見た世界史用語のつながり

大阪大学所蔵の拓本より作成したもの。その写真は、ウェブサイト「大阪大学リポジトリ OUKA」で閲覧も入手も可能。画面左の項目から「資料タイプ」を選択し、さらに「データセット」を選択。次に入力キーワードで「トニユクク碑文」を検索すると一覧が表示され、クリックすれば電子画像を閲覧できる。なお、以下に示す突厥文字の転写については【付録】のアルファベット表を参照。また、古代トルコ語に再建する際に補った母音は下線を引いて示した。

(a) テュルク、トルコ「突厥」

転写 t ü r k
 ↓
 再建 Türk / Türük
 テュルク



(b) タブガチ「唐」

↑
タクバツ「拓跋」

翻字 T B G č ←

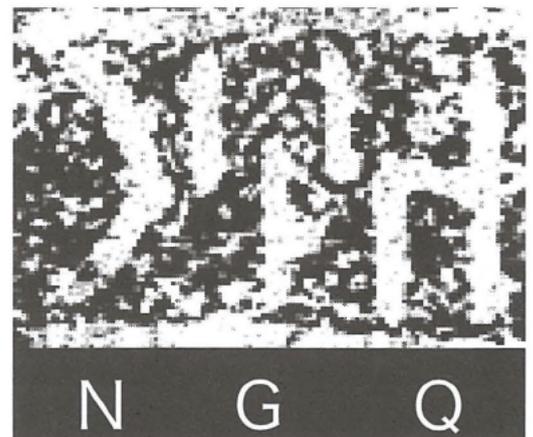
↓
再建 Tabrač タブガチ

cf. ^{せんび}鮮卑・拓跋国家〔北魏→西魏・東魏→北周・北齊→隋→唐〕

(c) カガン「可汗」

↓
ハーン、ハン

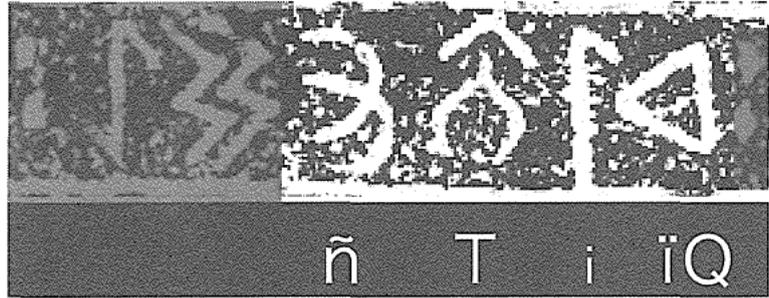
遊牧民の君主、王



転写 Q G N
 ↓
 再建 qaran カガン

(d) キタニユ 「契丹」

↓
キタイ/キタン (遼)



転写 iQ i T ñ
↓
再建 Qītañ キタニユ

【付録】 突厥文字アルファベット表 (オルホン碑文の例)

庄垣内正弘「突厥文字」『言語学大辞典 別巻 世界文字辞典』[三省堂, 2001年, pp. 671-675] 掲載の表を利用。

	突厥文字	転写	表示音				
1	↓ 1	a	a, ä	21	h	Q	q
2	↑	i	ī, i, e	22	ʏ	k	k
3	>	W	o, u	23	◁	iQ	īq, qī, q
4	μ N	ü	ö, ü	24	↓ ↑	uQ	oq, uq, qo, qu, q
5	∂ J	B	b	25	β R	ük	ök, ük, kö, kü, k
6	⊗ ⊗	b	b	26	Ƴ Ƴ Ƴ	š	š, s
7	⊗ ⊗	D	d	27	f	S	s, š
8	x	d	d	28	l	s	s, š
9	D D	Y	y	29	⊗ ⊗	m	m
10	∂ ?	y	y	30	Ƴ Ƴ	ŋ	ŋ
11	↓ L	L	l	31	1	p	p
12	Y	l	l	32	1 人	č	č
13	∂	N	n	33	Y	ič	ič
14	h h	n	n	34	h	z	z
15	h h	R	r	35	∂	ñ	ñ
16	Y	r	r	36	M	lt	lt
17	∂ ∂ ∂	T	t	37	∪ ∪ ∪ ∪	nt	nt
18	h	t	t	38	∪	nč	nč
19	γ γ	G	γ		:	:	句点
20	ε ε	g	g				